

令和6年度 山口県立大学 国際文化学部 国際文化学科 一般選抜（前期日程）「小論文」問題用紙

以下の文章を読み、問1、問2に答えなさい。

「非難」や「批判」ということばは、世間的にはあまり評判が良くないようです。しかし、それは適切な非難と、誹謗や難癖といったことばによる攻撃とをはっきり区別することに失敗しているからだと思えます。ここでは、その区別をつけてみましょう。

（中略）

非難をするとき、誰かに非がある、良くないところがあると指摘することになるため、悪口のように優劣を示してしまう、と思われるかもしれません。しかし、適切な非難は単に人の劣ったところを指摘するものではないのです。

適切な非難は、「後ろ向き」(backward looking)であると同時に「前向き」(forward looking)である、と言われます。まず、後ろ向きであるのは、過去に行った悪いことを指摘するからです。あなたはこういう良くないことをしました、しています、とできれば理由も言いつつ示します。

非難が前向き、つまり未来志向であるのは、今後どうしたらよいか、どうすべきなのかの指針も提示して、非難の対象に、これまでのふるまいを反省して、これから変わっていく機会をも与えるからです。一種の教育の可能性を持っているため、非難は前向きであると言えます。

単なる罵倒や悪口なら、前向きな面を持つ必要がありません。標的をコミュニティの中で下位に置いて、自分の道具として利用したり、あるいはそもそも同じコミュニティから排除することが目的だからです。その人が反省しようとして反省しまいと、まったく問題ではありません。出て行ってもらうだけだからです。

適切な非難は異なります。非難の相手を同じ立場の存在だと考えているならば、これからはずっと同じ立場で、同じコミュニティの中で、仲良くななくてもつき合っていかなければならない人物とみなしています。それならば、もし良くないふるまいをしてきたならば、それはやめてもらい、これまでの行いを反省して、今後はそうしないようにしてもらわなければなりません。ですので、こうした方がよいですよ、そうしたら歓迎しますよ、という態度を表明しなくてはなりません。

適切な非難や批判を自分への誹謗中傷だととらえてしまう人は、非難の前向きな側面が見えていないからだと思います。非難の後ろ向きな部分だけなら、確かに悪口や誹謗とそれほど違いはないかもしれません。いかに間違ったことをしたか、いかに正しくないのか、という指摘は、そうでない人との比較を含めると、自分が劣っていると言われていることになるからです。

見方を変えれば、不適切な非難や、意味のない叱責のようなものは、前向きの要素が少なすぎるということになります。今後どうすればよいかの行動指針がはっきりと示されていないか、あなたは同じランクの仲間であり、批判を受け入れ、反省して変化して欲しい、というメッセージがまったく伝わらないような場合は、単に叱りたいから叱っていると解釈されてしまうでしょう。人間の応報感情、「目には目を！」「やられたらやり返す！」という感情を満たすためだけに、ぶん殴る代わりにどなっているのだろう、と思われてしまいます。

しっかりと悪いところを指摘するという後ろ向きの部分と、教育の機会を与える前向きの部分と、そのバランスをうまく取るのは非常に難しい作業で、私自身ももちろんうまくできるわけではありません。しかし、そのバランスを取ることをあきらめては、私たちはお互いを高め合うということが一切できなくなります。

同じ社会に住んでいる人間同士は、まっとうな非難や批判をやりとりすることにより、お互い何を大事にしているかを理解し、成長することができます。もし意見が違って、落とし所が見つかるかもしれません。それぞれがそれぞれを気に入らなければ、追いついたり殺したりして、社会から排除するというのでしょうか。そんなわけにはいきません。どこにも追いつく先はありません。同じ時空に暮らしている人間同士、なんとかやりくりして、一緒に暮らしていかなければならないのです。

（出典：和泉悠『悪口ってなんだろう』株式会社 筑摩書房、2023年、82-85頁。出題のため、一部省略を行っている。）

問1 下線が引かれた部分が意味することを、本文の内容を踏まえて200字以内で自分の言葉で説明しなさい。

問2 あなたが海外で、さまざまな言語や生活習慣を持っている人々と暮らしていくことになったとき、どのようにしてコミュニケーションを取りながら暮らしていくか、本文の主張を踏まえて600字以内で述べなさい。

令和6年度 山口県立大学 国際文化学部 国際文化学科
一般選抜（前期日程）「小論文」問題

出題意図

出題意図

出題文は、和泉悠『悪口ってなんだろう』株式会社 筑摩書房、2023年の82-85頁から、適切な非難や批判をすることの重要性を指摘した文章である。著者は「悪口とは相手を自分より劣ったものとして発する」という立場から、これとは違うものとして「適切な非難や批判」をあげる。相手の行為の非を指摘したうえで、どのように反省し、改めるかを導くものとして「適切な非難や批判」をすることが、人々の共存には必要である、と説いた一節である。

問1では、適切な非難や批判は「前向きな要素をもっている」という点が読み取れているかどうかを確認する。課題文を読んで、その内容を正確にとらえることができる知識および技能と、問題が要求する内容について、適切な日本語で説明できる表現力を見る。

問2では、多様な文化や背景を持つ人々と共存していく際にどのような点について気を付けるかを問うことで、異なる言語・文化・社会システムを持っている人々と生きていくために必要な知識・技能、および思考力・判断力・表現力を見る。